

「父子チャレンジ～お父さんと一緒にクッキング!～」 募集

お父さんの出番です！夏休みの思い出に
お子さんたちと一緒に料理にチャレンジしてみませんか？
おじいちゃんに参加も大歓迎です。先着順ですので、お申込はお早めに！

日時：8月26日(日) 10：30～14：00
場所：陵南の森公民館 調理実習室
メニュー：ルーから仕込む 本格ビーフカレー
手づくりギョーザ
対象：小中学生と男性保護者
(子どもは2人まで参加可)
定員：先着12組
(定員になりしだい締切り)
参加費：1組 1,500円
(子どもが2人の場合は、1組2,000円)

申込：7月4日(水)10：00から電話受付開始
無料一時保育：先着順
定員5人
2歳から就学前までの児童
※要予約
講師：吉田 清彦氏
(家事としての男の手料理研究家・
関西調理師学校講師)
申込・問合せ：
人権推進課 ☎947-3606 (直通)

サラダボール

平成4（1992）年6月3日から14日にかけて、ブラジルのリオデジャネイロで、環境と開発に関する国際連合会議（地球サミット）が開催されました。「自分たちの将来が決められるその会議に、子どもこそが参加すべき」と自分たちで費用を集め、地球サミットへ行った子どもたちがいました。NGOブースでの粘り強いアピール活動が実を結び、リオ滞在予定日の最終日であった6月11日、世界の首脳を前に当時12歳の少女が“子ども代表”としてスピーチを行うチャンスを手に入れました。その少女の名はセヴァン・スズキさん。カナダ在住の日系4世です。この感動的な6分間のスピーチは“リオの伝説のスピーチ”として語り継がれています。

そのスピーチの一部を紹介いたします。「私がここに立って話しているのは、未来に生きる子どものためです。世界中の飢えに苦しむ子どもたちのためです。そして、もう

行くところもなく、死に絶えようとしている無数の動物たちのためです。あなた方は、オゾン層にいた穴をどうやってふさぐのかわらないでしょう。あなた方は、命を失った川にどうやってサケを呼びもどすのかわからないでしょう。絶滅してしまった動物をどうやって生きかえらせるのかわからないでしょう。そして、砂漠化した場所にどうやって森をよみがえらせるのかわからないでしょう。どうやって直すのかわからないものを、壊し続けるのはもうやめてください。学校で、いや幼稚園でさえ、あなた方大人は私たちに、世の中でどうふるまうのかを教えてください。たとえば、『争いをしないこと』『話し合いで解決すること』『他人を尊重すること』『ほかの生き物をむやみに傷つけないこと』『欲張らずに分かちあうこと』。ならばなぜ、あなた方は私たちに、するなということをしているのですか。私たちが子どもの未来を真剣に考えたこと

がありますか。大人の皆さんは「私たちを愛している」と言いますが、言わせてください。もしその言葉が本当なら、どうか本当だということ、行動で示してください。20年ほど前のセヴァンの“ウラモオモテもない”言葉は、今もなお地球上の至るところで起こる民族や宗教をめぐる争い、人権問題、環境問題など、さまざまな問題にかかわる大人の姿勢に強く反省を促すものです。日本では、福島原子力発電所の事故後、原子力発電のあり方について議論されていますが、それぞれの立場の人（大人）にとって都合の良い内容ではなく、次世代（子ども）に自信を持ってバトンタッチできる内容であってほしいと考えます。地球は狭くなったと誰かが言いましたが、大人であろうと子どもであろうと、一人の人間として何ができるかということ、一人の人間として何ができるかということ、一人の人間として何ができるかということを地球規模で考え、地球上の人類として行動することが求められています。